

講演会

『曾我物語』にみる印刷技術の発展

2013年11月20日(水)

18:30~20:00(18:00 開場)

場所:千代田図書館 9階特設イベントスペース

講師:小井土守敏氏(大妻女子大学文学部教授)

定員:40名(参加無料、事前申込不要、当日先着順)

主催:大妻女子大学国文学会、千代田図書館

お問合せ:千代田図書館(03-5211-4289・4290)

古活字版『曾我物語』の変遷をたどる

古典作品の多くは写本(手で書き写して作られた本)で伝えられたため、写し間違いや意図的な書き換えによりいくつかのバリエーションが生まれてきました。軍記文学の多くがそうであるように、『曾我物語』も多様な諸本を展開させています。

そうした本文の変化を終息へと向かわせたのが、近世期の出版文化でした。特に、近世初期の古活字版による出版は、『曾我物語』の本文ばかりでなく、多くの軍記文学のテキストに大きな影響を及ぼしたと考えられます。

本講演会では、『曾我物語』の古活字版三種を題材として、記事の増補・修訂などを経て、テキストがどのように整えられていったのか、そしてそれは、当時の印刷技術とどのように関わっていたのかについてお話いただきます。

また、講演会場にて、大妻女子大学所蔵の『曾我物語十二行古活字版(全巻)』を展示します。目にする機会が少ない古活字版を身近にご覧ください。

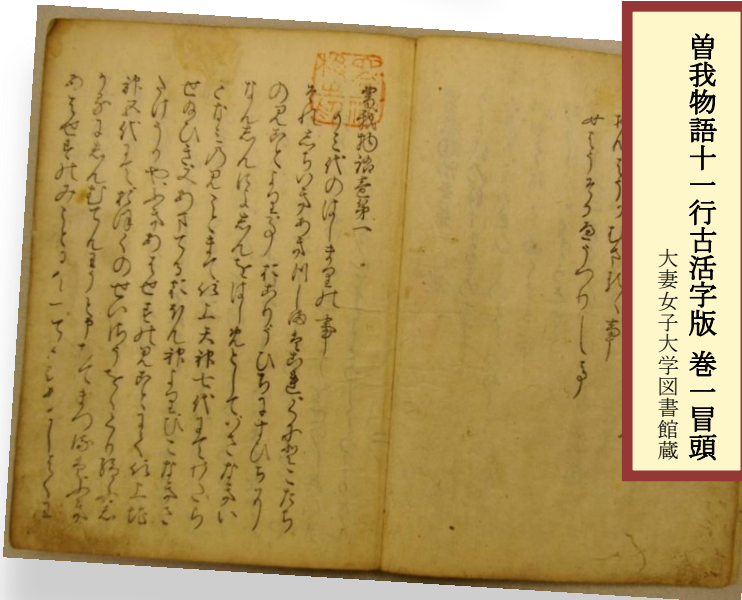
CHIYODA PUBLIC LIBRARY

『曾我物語』は、鎌倉末期から室町前期にかけて成立したとされる軍記文学の一種で、幼くして父を失った兄弟が、十八年間の艱難辛苦の末に仇を討ち果たす仇討ちの物語です。軍記文学に分類されますが、兄弟の一代記的な性格が強く、『平家物語』のようないわゆる軍記物語に対して、准軍記文学と呼ばれます。

『曾我物語』の古活字版は、多くが無刊記版のため刊行年がわかりません。そこで「二ページに何行活字が組まれているか」によって分類しています。最も古いとされているのが「十行本」で、全十巻がすべて揃っている完本は少なく、東京大学、聖心女子大学に所蔵されています。「十一行本」は十行本の後出本で大変珍しく、完本の所在は大妻女子大学以外に確認できていません。「十二行本」はそのさらなる後出本で、完本の状態では複数の所在が確認されています。



曾我物語十行古活字版
(古版本切れ) 巻一
大妻女子大学草稿・
テキスト研究所所蔵



曾我物語十一行古活字版 巻一冒頭
大妻女子大学図書館蔵



曾我物語十二行古活字版 巻一冒頭
大妻女子大学図書館蔵

講師 小井土守敏氏



大妻女子大学文学部
教授

1968 年生まれ。
中世文学、文献・書誌学を
中心に研究。
『曾我物語』『平家物語』など軍記物に関する
論文多数。

講演会場へのアクセス

住所: 千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 9F
千代田区立千代田図書館
電話: 03-5211-4289・4290
最寄駅から: 東京メトロ東西線・半蔵門線、
都営新宿線「九段下」駅下車、徒歩 5 分

